

令和 6 年度

第4回 学校運営協議会～はりはらの会～



運動会、修学旅行

令和 7 年 2 月 7 日（金） 午後 2 時 00 分から

浜松市立曳馬小学校

令和6年度 第4回 曳馬小学校運営協議会 ～はりはらの会～

- 1 日 時 令和7年2月7日（金） 午後2時00分～午後3時30分
- 2 会 場 曳馬小学校 多目的ホール
- 3 内 容
 - 1 会長挨拶
 - 2 校長挨拶
 - 3 議長の選出
 - 4 前回会議録の確認
 - 5 熟議
 - ①「学校関係者評価」について（正委）
 - ②「来年度の学校運営の基本方針」について（校長）
 - ③「学校運営協議会自己評価」（会長）
 - 6 その他
 - 夢育やらまいか事業報告（教頭）

※ 次回開催 令和7年度 第1回学校運営協議会 ～はりはらの会～
5月2日（金）午後2時00分～午後3時30分（予定）

学校運営協議会出席者名簿

学校運営協議会委員

委 員	飯尾 忠弘
委 員	川井 啓介
委 員	中村 佐知枝
委 員	戸田 京子
委 員	荒巻 太枝子
委 員	鈴木 香代
委 員	黒田 淳二

オブザーバー

曳馬協働センター所長	野川 敬司
曳馬協働センター主任	伊藤 成明

学 校

校 長	竹内 孝夫
教 頭	古橋 孝文
主幹教諭（CS担当）	鈴木 正委
CSディレクター	内堀 邦子

浜松市教育委員会

教育総務課	鈴木 陽子
-------	-------

令和6年度

第1回 学校運営協議会 5月2日（木）10時20分～11時30分
熟議

- ① 「令和6年度 学校運営の基本方針」について（校長）
- ② 「いじめ防止等のための基本方針（校長）」について（校長）
- ③ 「夢育やらまいか事業」について（教頭）

第2回 学校運営協議会 8月7日（水）10時20分～11時30分
熟議

- ① 「学校経営評価」について（校長）
- ② 「教育課程」について（正委）

第3回 学校運営協議会 9月17日（火）10時00分～11時30分
熟議

- ① 「学校評価」について（校長）

（12月上旬頃 学校運営協議会自己評価アンケート送付 12月末〆切）

第4回 学校運営協議会 2月7日（金）14時00分～15時30分
熟議

- ① 「学校関係者評価」について（正委）
- ② 「来年度の学校運営の基本方針」について（校長）
- ③ 「学校運営協議会自己評価」について（会長）

I 令和 6 年度 の 取組

【学 習 推 進】			【安 心 安 全】		
①資質・能力を確実に身に付ける授業改善 ・資質・能力を育成する単元づくり ・見方・考え方を働かせる深い学び ・個別最適な学びと協働的な学び	②自立し生活を豊かにしていく生活科 ・「知りたい、やってみたい」を実現する活動や体験 ・他教科や上下の発達段階の学びとの滑らかな接続 ②探究的に取り組む よろこびタイム ・問題解決的な活動が発展的に繰り返される探究学習の確実な実施 ・各教科で身に付けた資質・能力との関連付け	③子供主体の特別活動 ・自発的、自治的で創意工夫あふれる活動や行事の充実 ・学級、学年を超えてつながるよりよい人間関係づくり	①みんなが心地よい学校生活 ・思いやり・規範意識の涵養と自尊感情の高揚 ・多様性、包摂性を大切にする学級風土の醸成 ・ＩＣＴリテラシーの向上 ・あいさつの習慣化	②自他を大事にする健康・安全指導 ・基本的生活習慣（早寝・早起き・朝ご飯）の定着 ・命・心・体を守る知恵と術の習得 ・運動する楽しさを味わえる活動・環境の工夫	③温かで細やかな個別支援 ・児童の困り感をチームで解決する発達支援、登校支援 ・いじめ防止基本方針に基づく適切な対策・対応

【連 携 ・ 協 働】	
①地域・家庭との情報共有 ・保護者と共に考える教育相談 ・情報収集と情報活用 ・ＩＣＴ、地域回覧等によるタイムリーな情報発信	②コミュニティ・スクールの充実 ・目指す子供像、児童の実態の共有 ・地域・家庭の人的・物的教育資源の積極的な活用 ・学校支援コーディネーター、曳馬協働センターとの連携・協働

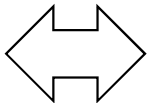
II 自己評価		※「評価」は「そう思う」「ややそう思う」の割合			※「比較」は昨年度との比較			自己評価の分析・考察	
①探究・創造	進んで「知りたい」「やってみたい」をかなえることができる	87.1	%	81.2	%	-0.7	78.1	%	【アンケートの結果より】 ・学習では、全体的に「保護者の評価」と「教職員の評価」がやや低い。本年度より「のびやかな学び」をテーマに資質・能力の育成に取り組んできた。意識は高まりつつあるので、主体的な学びや探究的・創造的な学びを中心として学力の向上を図りたい。 ・タブレット型端末の活用は進んでいる。令和の教育を見据え、さらに有効な活用の仕方を模索していく。 ・生活では、自律をテーマに取り組んだ。児童の表れは全体的によい。ただし、「あいさつと言葉づかい」「体力づくり」については個人差が大きく、課題である。 ・「教職員（姿勢）」や「連携」について、よい結果が見られる。 【全国学力調査の結果より】 ・国語科では、ほぼ全国平均、算数科では、やや全国平均を下回った。知識・技能に比べ、思考・判断・表現の学力の方が数値が低かった。 ・質問紙では、８割以上の項目で全国平均を上回る肯定的な回答が得られた。特に、「自己有用感」「規範意識」で肯定的な意見の割合が高かった。 【いじめ対応】 ・「いじめアンケート」を年３回実施し、いじめに対して積極的な認知をしている。生徒指導主任を中心に、早期発見、早期対応を心掛け、子供たちや保護者との共有ができています。
②自尊・個性伸長	自分のよさがわかり、自分を高めることができる	85.0	%	90.9	%	4.7	90.6	%	
③協働・共生	友達や周りの人と力を合わせて活動することができる	87.6	%	89.6	%	1.8	93.8	%	
④目標選択	目標を立て、進むべきプロセスを自ら選ぶことができる	87.1	%	78.1	%	5.7	62.5	%	
⑤学習	「勉強してよかった」「勉強はおもしろい」と思っている	79.3	%	66.5	%	-0.2	78.1	%	
⑥学習	自分の考えや思いをもち、それを表そう、伝えようとしている	84.8	%	82.6	%	1.4	78.1	%	
⑦学習	学んだことを生活で生かしたり、さらに深く自分で調べたりしている	78.5	%	69.6	%	-0.9	65.6	%	
⑧学習	ルールやマナーを守り、タブレット型端末を学習に生かしている	93.0	%	84.5	%	2.8	75.0	%	
⑨生活	学校では楽しく安心して生活している	87.6	%	93.6	%	0.5	100.0	%	
⑩生活	学校の決まりや大人や友達との約束を守り、マナーよく生活している	92.4	%	92.1	%	0.7	71.9	%	
⑪生活	気持ちのよいあいさつや返事、言葉づかいができています	87.8	%	77.8	%	-1.7	56.3	%	
⑫生活	早寝・早起き・食事など自分の健康に気をつけて生活している	83.5	%	79.1	%	-1.9	84.4	%	
⑬生活	自分から進んで運動や体力づくりに取り組んでいる	81.8	%	66.5	%	-2.5	78.1	%	
⑭教職員（姿勢）	先生方は子供たちのよさや頑張りを大切にしている	93.6	%	95.4	%	1.4	100.0	%	
⑮教職員（姿勢）	先生方に安心して相談できる	82.4	%	90.9	%	-2.9	93.8	%	
⑯連携	学校と家庭は必要な情報が共有できている			83.2	%	1.0	100.0	%	

9.2

17.3

III 今後の改善方針（案）

- ◇教職員全体で「のびやかな学び」の押さえを共有して、校内研修を行っていく。
- ◇「よろこびタイム」「生活科」の探究活動での経験をととして、子供たちの主体的な活動につなげていく。
- ◇「自律」をテーマに今後も子供たちの学習面や生活面での意識が高まるように支援をしていく。
- ◇「あいさつ」「体力づくり」については、委員会など子供主体の特別活動を生かし、意識付けをする。
- ◇「いじめアンケート」や「面談」を定期的に行い、いじめの早期発見、早期対応に努める。その際は、児童、保護者、教職員の連絡を密にして、子供たちのよりよい成長に導いていく。



IV 学校運営協議会による学校関係者評価

曳馬小学校生徒指導資料

1 曳馬小学校の生徒指導

（1）ねらい

- ルールやマナーを大切にし、相手の立場に立って考える思いやりのある子を育てる。
- 自律しようとする子を育てる。

（2）取り組み

- ① 学級やグループでの温かい人間関係づくりを意図的に進める。
- ② 基本的生活習慣の徹底
 - 「曳馬小学校生活の約束」の指導
 - 「月のめあて」を通しての投げ掛け
 - あいさつを推進する取り組み
 - 言葉遣いの指導
 - 正しい廊下歩行、集まりの場でのルールの徹底
- ③ 学年会における学年児童の共通理解
- ④ 生徒指導個票の作成
- ⑤ 教育相談の充実（SC、SSWの活用、ケース会議の充実）

2 生徒指導の状況

（1）いじめについて

- ① 今年度のいじめ認知件数：480 件（R7.1月現在）
- ② 楽しい学校づくりアンケートの実施（いじめアンケート：学期に1回実施）
 - 書かれた内容についてその日の内に本人や該当児童に事実確認、指導をする。
 - 書かれた内容については放課後、校内いじめ対策委員会を開催し、いじめ認知をする。
 - 場合によっては家庭連絡、家庭訪問、面談を実施する。

（2）不登校について（R7.1月現在）

- ① 不登校児童 16名
 - 2年2名、3年1名、4年5名、5年3名、6年5名
 - 内訳 2年生：男子1名 女子1名
 - 3年生： 女子1名
 - 4年生：男子1名 女子4名
 - 5年生：男子2名 女子1名
 - 6年生：男子2名 女子3名
- ② スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用し、カウンセリングや教育相談、校内学びの教室での指導を実施。外部機関との連携も行っている。

(様式1)

令和6年度 学校運営協議会自己評価表

浜松市立曳馬小学校運営協議会長

＜本年度の目標＞

・第2期となるので、新しい委員と学校の情報共有を心掛け、子供たちのために協力体制をつくる。

＜評価項目1＞ 学校運営の基本方針について熟議することができたか。

- 学校教育目標の4つの目当てについて、校長より熱意ある詳細説明があり、各委員は十分に理解した。4つの目当ての「!」「☆」「+」「→」は、子供たちの理解をより深め、自ら目標設定に役立つ等の熟議をすることができた。
- 学校経営構想が1期目よりわかりやすくなった。教育目標である「未来をえがき、伸びやかに学ぶ曳馬っ子」のタイトル通りの子供像やビジョンの達成が楽しみである。
- 学校目標と曳馬っ子の4つのめあてが今年度から新しくなったことがわかった。昨年度に比べて抽象的な表現になったと思うので、それを具体的にどのように子供におろしていくのか、子供たちはどのように自分たちのめあてとして受け止めていくのか1年目の課題だと思った。

校内研修で総合的な学習・生活科の実践をきかせていただき、取り組みの一部がよくわかった。学習推進部・安心安全部・連携部が「よろこび」を作り出すために、どのような手立てをとったか、どのように変わりつつあるのかも聞きたかった。

- 質疑や懸念点の共有などを交え、理解を進めながら、それなりに議論できたと思う。
- 「はままつの教育が目指す子供の姿」や「曳馬中校区が目指す子供の姿」も合わせて御提示いただいた上で曳馬小学校運営の基本方針を知ることができたので、より理解が深められた。現在の子供達の特質に目を向けた方針に共感が持てた。
- 学校教育目標「未来をえがきのびやかに学ぶ曳馬っ子」を更に4つの目当てに分かりやすく記され、学校、児童が目指す方向が明確となりそれを基に改善点なども熟議できた。
- 「学校教育目標」がわかりやすい言葉で設定されることで、学校に関わるすべての人が共通理解をするようにという意図が感じられ共感することができた。協議会で出された意見についても参考になった。

＜評価項目２＞ 承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

- C S 協力依頼について企業の皆様への協力要請の仕方や、委員が知る企業の特性や理念などの情報と共に、地域や保護書への積極的な依頼の手法について熟議ができた。
- 前期の流れからほぼ支援活動の中身は固定されてきたように思う。しかし、活動を実行していく中でさらに新たな支援が必要になることは好ましいことである。

- 学校運営に関わる地域と学校のつながりがあまりなかったと思う。知らなかっただけかもしれないので、今年度どの程度の連携協働ができたのか知りたい。

保護者が学校活動にあまり興味がないように思う。そのためボランティアがあまり集まらないのでは。パイプ役になるような活動をしたいが、どのようにしたらよいかかわからなかった。学習支援活動についてはC S の一員でありながら今年度の依頼一覧がないため、どのような学習支援活動しているのか分からなかった。

地域をよく知る学習支援コーディネーターの存在が必要だと思った。

- 学校が必要とする支援、協議会ができる支援についてキャッチボールができた。第２回は病欠のため議論に参加できなかったが、その後C S への協力依頼例の表にまとめられた。
- 学校からの協力依頼も明確になり、地域や保護者の学校の教育目標を目指した支援活動について熟議できた。
- 地域の助けや学校との連携がよりよく進むようになっていくことで、学校支援活動がもっと充実していくと感じたが、実際は学校生活の中での子供の様子が十分にわからない中で地域が関わるためには、現場の先生方の声をもっと聞けるといいと感じた。
- C S 協力依頼の一覧により、さまざまな方が学校の教育活動に関わっていることが理解できたが、実際の活動の様子などを見させていただくとさらに理解が深まったのではと感じる。また、子どもたちと年齢の近い高校生にボランティア活動やS D G s への取り組みなどと伝える機会があると、さらに子どもたちの視野が広がるのではないかな。

＜評価項目３＞ 協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

- 自治会役員会や自分の趣味の会等の中で、学校やＣＳの話を機会があるごとに情報発信した。さらに地域のシンボルである学校の重要性や教職員の頑張りを説明した。著しい社会情勢の変化の中で、ＰＴＡや学校を取り巻く環境の変化など重要事項の情報発信もした。
- 地域の福祉協議会の会議等で、支援活動について話し協力を依頼した。たくさんの地域住民の方々に学校運営に協力的になってもらえるように発信していきたい。
- 協議結果が具体的ではなく、何をだれに情報発信してよいのか正直分からなかった。
- 生活全般・ＰＴＡが手いっぱいでは十分には発信できなかった。
ＰＴＡ関係者一部への若干の共有にとどまった。
- 民生・児童委員会の月例報告会にて報告。また８月には校長先生にご参加いただき、学校運営の内容をお話しいただいた。民生委員の者も学校の様子が見え理解が深まった。
- 十分ではないが、情報発信の声は掛けた。（直接声掛けやLINE等を使って）実際のボランティア活動参加にまでは結び付かなかったので、伝え方等改善したい。
- 自園での参観会や園長ブログ等で学校の取り組みを伝える事ができた。保護者が幼稚園の次のステップである学校を身近に感じる機会になるよう努めたい。

＜評価項目４＞ 今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

- ＣＳ協力事業に多くの皆様に参加していただける手法を実施する。具体的には学校だより「はりはら」に学校支援活動の①児童の感想 ②協力者のコメント ③担任教諭のコメント、等の特集を企画発行し、飛躍的に協力者の人数が増えるよう取り組んでいく。
- 学校運営基本方針に従って、実際に子どもたちが行動できているか、先生の指導ができているのか、日常の普通授業を参観してみたい。（保護者の参観会とは別の日程で）
「机上の空論」になっていることがないか確かめも必要だと思う。
- 学校緒教育目標実地に向け、地域・学校との連携をしっかりとるためのパイプ役になる。そのために、学校の取り組み、子供の実態、親の願いをもっと知らなくてはならない。また、ＣＳが学校に足を運ぶ機会を増やす。
- 必要十分な情報発信。学校支援の協力分担。募集などのさらなる具体化。コーディネーター配置による連携強化、マンパワー負荷分散。
- 本年度の目標である委員、学校との協力体制を強化し活動の中で改善点を探し、子供たちに還元していく。
- 第２期の初年度を通して協議の場で学び合えたことを大切に、曳馬の子供たちのために大人の協力体制をさらに強めていきたい。
子供たちに「信頼される地域の人」となれるよう、日頃から子供たちとの関わりの中で感じたことを積極的に評議の場で発信していきたい。
- 幼稚園という教育現場にいるものとして、子どもたちに必要な支援、協力について具体的に提案していきたい。協議会の委員、先生方と協力して多面的な視点で意見交換をしていきたい。

コミュニティスクール協力依頼 例

学 年	実施月	教科(領域)	内 容	必要人数
1 年	5～7月	生活科	朝顔や野菜の水掛け、草取り	P T A・学校 企 業
	1月	生活科	昔の遊び（けん玉・お手玉・あやとり・こま・めんこ等）	5～10人
2 年	5～11月	生活科	町たんけん 校区内の施設や店の案内	若干名
	6月	算数科	長さ ものさしの読み方 使い方	若干名
	5～7月	生活科	野菜の水掛け、草取り	P T A・学校 企 業
	5～7月	生活科	野菜の育て方、苗の植え方	若干名
3 年	5～8月	理科	学年園の水掛け、草取り	P T A・学校企 業
	11月	総合	曳馬地域の昔と今	若干名
	通年	書写	片付けの見届け、筆の使い方指導	若干名
4 年	通年	理科	学年園の水掛け、草取り	P T A・学校 企 業
	4 月	音楽	「さくらさくら」琴の演奏 他和楽器の基本演奏	若干名
	5 月	総合	防災学習 地域防災の話	若干名
	11・12月	社会	のこしたいもの、つたえたいもの 地域に残る建物 芸能 祭りについて	若干名
	12月	書写	書き初めの指導	若干名
5 年	5～6月	家庭科	調理実習	若干名
	6月下旬 9月	家庭科	ミシン(10)調理実習(5)	若干名
	5～8月	理科	学年園の水掛け、草取り	P T A・学校 企 業
	11月	総合	地域産業の講話	常盤工業 エネジン他
6 年	5～6月	家庭科	調理実習	若干名
	5～8月	理科	学年園の水掛け、草取り	P T A・学校 企 業
	7～9月	家庭科	ミシン 上糸下糸のかけ方 ミシンの操作、調整	若干名
	12月	総合	生き方講座講師	若干名
	1 月	社会	戦争学習（戦時中の話）	若干名
	2～3月	家庭科	ミシン 卒業に向けての取り組みの手伝い	若干名

令和6年度 第3回 曳馬小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和6年9月17日（火） 午前10時00分から 午前11時20分まで
- 2 開催場所 曳馬小学校 多目的ホール
- 3 出席委員 飯尾忠弘、川井啓介、中村佐知枝、荒巻太枝子、鈴木香代、黒田淳二
- 4 欠席委員 戸田京子
- 5 オブザーバー 伊藤成明(曳馬協働センター)
- 6 学校 竹内孝夫（校長）、古橋孝文（教頭）、鈴木正委（CS担当職員）
内堀邦子（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 内堀邦子（CSディレクター）
- 9 議長選出
司会から議長の選出について委員に意見を求めたところ飯尾会長を推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
- 10 協議事項
・「学校評価」について
- 11 会議記録
司会の古橋教頭から、委員総数7人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため会議が成立している旨の報告があった。

○ 学校評価について

最初に、学校評価の実施時期や方法と全国学力学習状況調査について鈴木主幹から、続けて竹内校長から本年度の学校評価の評価項目について説明があり、委員からは以下の発言があった。

- ・ 学習総合評価、学力調査の結果が示されているのを見て、人とのかわりを大事にしていることが分かった。家庭が安定している。算数、論理的能力、分析力に課題がある。課題に対しての取組について教えて欲しい。（荒巻委員）
- ・ 曳馬小学校が今後一番力を入れたいことが「探求・創造」。5、6年生の学習目標「実社会から課題を見つけ解決のために行動する」に示しているように、自ら考え学ぶ中から学びを広げていく。学んだことを生活に活かし、深く探求していくことを大事に育てる。学習推進は3本の矢「授業改善、生活科・総合的な学習の時間、特別活動（運動会、修学旅行など）」を基点にしている。単なる知識ではなく知識をどのように生活に結び付け、知識を役立てていくかを学び、学力をつけていく。特活も学力として捉えている。常にどのようにしたらよいか思考することにより、論理性や分析力が向上する。全教科そろえて、知識・技能、思考・判断・表現、主体的に学習に取り組む態度で成績を評価している。テスト結果だけではない。（竹内校長）
- ・ 特別活動の中で、子ども同士の話し合いを通じて協調性や論理性が育まれとても良い。（荒巻委員）
- ・ これから求められる主体性とは浜松市の方針、国の方針なのか。（黒田委員）

- ・ 国は OECD(国際経済開発機構)の方針に向かっている。浜松市も国の方針に則った基準。浜松の教育という冊子が新しい学習指導要領ができた時、国の方針に準じて示している。各教科はその学習指導要領に則しているが、総合的な学習の時間は基準に則した評価をきちんとする。(竹内校長)
- ・ 評価項目をまとめるのは大変だったと思う。「探究・創造」の5・6年生の目標「生活や社会から自分で課題を見付け、解決に向けて行動することができる」は大人にも必要なこと。このことを学んでいることは素晴らしいことだと思った。(飯尾会長)

その他報告事項等

学校支援活動について、協力依頼の説明があった。

(別紙参照)

司会から、次回会議は、2月7日(金)14:00～15:30に変更し、その際5時間目の「よろこびタイム」の参観を行う旨の報告があった。

9月27日に4年生が「よろこびタイム」の中間発表を行い、委員の参観も可能であるとの連絡があった。